

- 9月の米景気先行指数は市場予想を下回り、今年3月以降で最も低い伸びに。米エコノミック・サプライズ・インデックスは9月半ば以降持ち直しの兆しがみられたものの、足もとはさえない動き。
- 米10年国債利回りは、およそ7か月ぶりの高水準へ足もと上昇。FRBが11月にも資産買い入れ縮小を開始するとの見方や、根強い物価上昇予想が背景に。今後の物価や企業価格の動向が注目される。

米景気先行指数は今年3月以降で最も低い伸びに

21日に発表された9月の米景気先行指数は前月比+0.2%と、市場予想の同+0.4%（ブルームバーグ集計）を下回り、今年3月以降で最も低い伸びとなりました。同指数は全米産業審議会（コンファレンス・ボード）が消費財受注やマネーサプライなど10種類の指標を基に算出しており、景気の山に対しては9～10か月程度の先行性があるとされています。

内訳をみると、米供給管理協会（ISM）新規受注指数や新規失業保険申請件数などが全体の上昇に寄与したものの、住宅着工許可件数などが足を引っ張るかたちとなりました。

米経済指標は、足もとはさえない動き

エコノミック・サプライズ・インデックスは、シテグループが経済指標と事前の市場予想とのかい離を指数化したものです。同インデックスは事前の市場予想を上回ればプラス方向に振れ、下回ればマイナス方向に振れます。

同インデックスは今年7月末以降、マイナス圏での動きが続いており、9月半ば以降持ち直しの兆しがみられたものの、9月の鉱工業生産指数や住宅着工件数などが市場予想を下回ったことで足もとはさえない動きとなっています。

今後の物価や企業価格の動向が注目される

経済指標がさえないにもかかわらず、米国長期金利は足もとで上昇基調をたどっています。

米10年国債利回りは8月3日の1.17%台から10月21日には1.70%台へ上昇し、3月31日以来、およそ7か月ぶりの高水準となりました。こうした背景には、米連邦準備理事会（FRB）が11月にも資産買い入れ縮小を開始するとの見方が強まっていることが挙げられ、パウエル議長は22日に、資産買い入れ縮小に向けて順調に前進しているとしました。

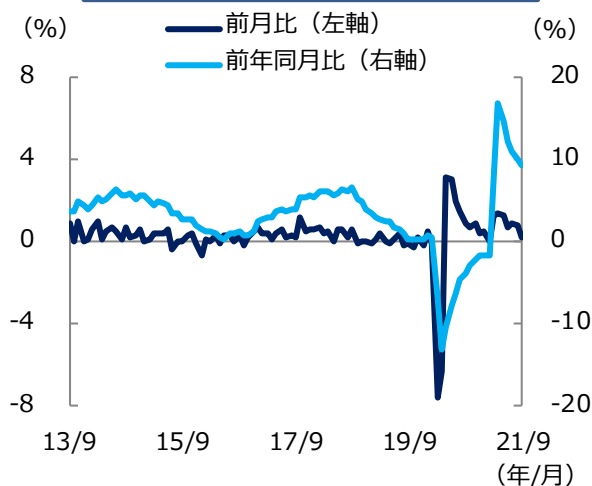
このほか、米国長期金利上昇の背景には、根強い物価上昇予想があると考えられます。市場参加者のインフレ期待（予想）を表す指標の1つである、ブレイク・イーブン・インフレ率（BEI）は、10年国債でみた場合、21日に2.64%と、2011年4月以来、およそ10年ぶりの水準へ上昇しました。

こうしたことから、今後の米国長期金利動向を探るうえでは、特に物価や企業価格の動向が注目されます。

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

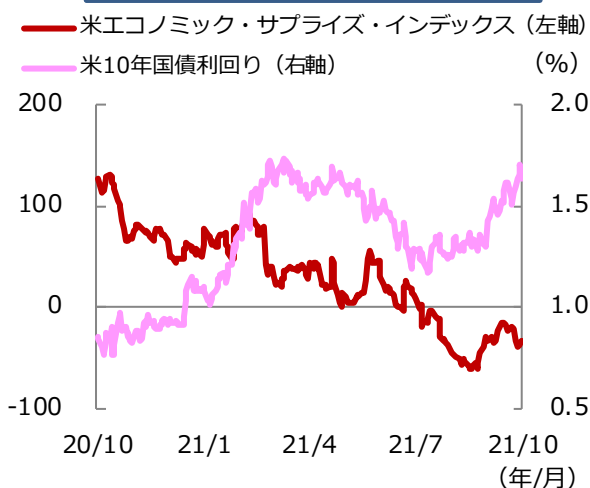
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

米景気先行指数の推移



※期間：2013年9月～2021年9月（月次）

米エコノミック・サプライズ・インデックスの推移



※期間：2020年10月22日～2021年10月22日（日次）

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【指数の著作権等】

- エコノミック・サプライズ・インデックスはシティグループ・グローバル・マーケット・インクが発表する指数です。